

規模から実質へ：WAIC2025 から読み解く中国 AI のトレンドと軌跡

Gemini

I. エグゼクティブ・サマリー

2025 年 7 月 26 日から 29 日にかけて上海で開催された世界人工知能大会（WAIC2025）は、中国の AI（人工知能）セクターが重大な転換点を迎えたことを明確に示すイベントとなった。本レポートは、WAIC2025 で観測された技術展示、企業戦略、政策発表を徹底的に分析し、現在の中国 AI エコシステムを定義する 5 つの地殻変動的なシフトを明らかにする。

- 地政学的ピボット：** 中国は、もはやグローバルな AI に関する議論の単なる参加者ではなく、そのガバナンス枠組みの設計者となることを目指している。WAIC2025 で発表された「世界人工知能協力機構」の設立構想は、西側主導のフォーラムとは異なる、中国を中心とした新たな技術ガバナンス体制を構築しようとする野心的な試みである。これは、中国が AI 時代のルールメーカーとしての地位を確立しようとする明確な意思表示である。
- エンボディメント革命：** AI ソフトウェアとロボティクスおよびインテリジェント・ハードウェアの融合が爆発的かつ具体的な形で進展した。昨年の 18 社から 80 社以上へと急増したロボット企業の出展は、AI が研究室のコンセプトから商業化可能なアプリケーションへと移行していることを象徴している。特にヒューマノイドロボットは、産業応用と低価格な開発プラットフォーム提供という二つの戦略的アプローチで市場を切り拓きつつある。これは、AI の価値が物理世界で具現化される「エンボディド・インテリジェンス」時代の本格的な到来を告げている。
- 大規模モデルの成熟：** 大規模言語モデル（LLM）開発の競争軸は、パラメータ数を競う「スケール競争」から、応用性、効率性、そして「AI エージェント」を主要なインターフェースとする方向へと戦略的に移行した。Zhipu AI の GLM-4.5 や Moonshot AI の Kimi-K2 といった最新モデルは、推論効率を最大化する MoE（Mixture-of-Experts）アーキテクチャを採用し、複雑なタスクを処理する「思考モード」を搭載するなど、実用性を重視した設計が際立っている。AI エージェントは、モデルの知能を実世界のタスクに結びつけるための新たな収益化の主戦場となりつつある。
- テクノロジー・タイタンの戦略的分岐：** 中国の巨大テクノロジー企業は、それぞれ異なる戦略的レーンへと明確に分岐し始めている。Huawei は、米国の制裁への対抗策として、

独自の Ascend チップとソフトウェアスタックによる完全な技術的自立を目指している。Alibaba と Tencent は、AI 開発のための包括的なクラウドプラットフォームを提供することでエコシステムの覇権を争う。一方で Baidu は、自動運転（Apollo Go）のような特定の垂直領域での圧倒的な優位性を確立し、商業化を加速させている。この戦略的分化は、地政学的要因によって形成された、それぞれの企業にとって最も防御可能な事業領域を反映している。

5. **商業化の転換点：** AI を収益性の高いサービスへと転換する動きが、特に自動運転と産業オートメーションの分野で画期的な進展を遂げた。上海市が Baidu と Pony.ai に対して、国内主要都市で初となる完全無人ロボタクシーの有料営業許可を発行したことは、長年の研究開発が具体的な商業活動へと結実した象徴的な出来事である。同様に、Siemens が産業用 AI アシスタント「Industrial Copilot」の中国市場でのパイロット導入を発表したことは、中国の高度な製造業が AI による生産性向上を強く求めていることを示している。

総じて WAIC2025 は、中国の AI が単なる技術的な模倣や規模の追求から、実用的な価値創造、物理世界への応用、そしてグローバルなルール形成への野心という、より成熟し、戦略的な段階へと移行したことを力強く示した。

II. WAIC2025：世界的な野心と実用的応用の新時代

WAIC2025 は、中国が自らのグローバルな AI に対する野心を明確に表明すると同時に、技術の焦点を抽象的な能力から具体的で実世界的な価値創造へと大きく転換させた、極めて重要なイベントとして位置づけられる。本セクションでは、この会議の背景と全体的なテーマを分析し、その戦略的な意図を解き明かす。

過去最大規模とグローバルな広がり

WAIC2025 は、その規模において過去の記録を大幅に更新し、中国 AI 産業の爆発的な成長と、このイベントがエコシステム内で占める中心的な重要性を物理的に示した。展示エリアは 70,000 平方メートルを超え、これは 2024 年から 34.6%の増加である¹。出展企業数は 800 社以上に達し、前年比で 60% 近く増加した¹。展示された製品やソリューションは 3,000 点を超え、その中には 40 種類以上の大規模 AI モデル、60 種類以上のロボット、そして世界初公開となる 80 以上の製品が含まれていた¹。

この規模の拡大は国内企業に限ったものではない。40 以上の国と地域から 1,200 人を超える

世界の専門家が集結し、その中には 12 名のチューリング賞受賞者やノーベル賞受賞者も含まれていた²。この国際的な参加者の構成は、WAIC が単なる国内の見本市ではなく、AI に関するグローバルな対話と協力のための重要なプラットフォームへと進化したことを示している。

テーマ分析：「AI 時代のグローバルな連帯」

今年の公式テーマである「AI 時代のグローバルな連帯 (Global Solidarity in the AI Era)」は、単なるスローガンではなく、中国の主要な政策発表を戦略的に枠付けるための意図的なメッセージであった¹。このテーマは、AI 技術がもたらす機会と課題に国際社会が共同で取り組む必要性を訴えるものであり、中国がその中で主導的な役割を果たそうとする姿勢を反映している。

このテーマを象徴するのが、李強首相による基調講演である。首相は、AI が経済の「新たな成長エンジン」として台頭する一方で、そのガバナンスが世界的に「断片化」している現状を指摘した³。そして、イノベーションと安全性のバランスを取りながら、広く受け入れられるグローバルな AI ガバナンスの枠組みを形成するためには、各国が政策と基準を調整することが義務であると強調した。特に、「技術がどのように進化しても、それは人間の管理下にあり、国際的な公共財として万人の利益のために開発されるべきである」との発言は、AI の未来が人類全体に利益をもたらす方向に導かれなければならないという中国の公式見解を示すものであり、後述する新たな国際機関の設立提案への布石となった³。

「世界人工知能協力機構」構想

WAIC2025 における最も重要な発表は、中国政府による「世界人工知能協力機構 (World Artificial Intelligence Cooperation Organization)」の設立提案であった³。この構想は、上海に本部を置く新たな国際機関を設立し、AI 分野におけるグローバルな協力を強化することを目的としている³。

この提案は、単なる協力の呼びかけ以上の、計算された戦略的ピボットを意味する。上海に新たな国際機関の本部を設置し、その形成を主導することで、中国は AI ガバナンスに関する議論の中心地を、西側主導の既存フォーラムから自国へとシフトさせようと試みている。李強首相が演説で「グローバル・サウス」への貢献を強調したように³、この構想は、欧米とは異なる価値観を持つ国々を糾合し、グローバルな技術秩序における新たなブロックのリーダーとしての地位を確立しようとする地政学的な動きと解釈できる。これは、次なる技術時代のルールを単に受け入れるのではなく、自ら起草しようとする明確な意志の表れである。

提案された機構の主な目的は以下の3点に集約される³：

1. **イノベーション協力の深化**：国境を越えた人材、データ、技術の流動性を高め、実用的なパートナーシップを促進する。
2. **包摂的な開発の促進**：特に開発途上国（グローバル・サウス）のAI能力構築を支援し、「デジタル・インテリジェント格差」を是正する。
3. **協調的なガバナンスの強化**：国連主導の取り組みを補完する形で、幅広い国際的コンセンサスに基づいたガバナンスの枠組みと規範を形成する。

中国政府は、この機構が既存の国際的枠組みに取って代わるものではなく、それらを「補完する」ものであると強調しているが³、その設立提案自体が、世界の技術ガバナンスにおける中国の影響力を飛躍的に高めることを意図したものであることは明らかである。

ヒントンの効果：世界的権威が提起した実存的リスク

AI研究の第一人者であるジェフリー・ヒントンの参加は、WAIC2025のハイライトの一つであった⁵。中国での初の公式な講演となった彼の登壇は、国際社会の注目を集め、会議の権威性を高める上で大きな役割を果たした⁵。

ヒントン氏は、汎用人工知能（AGI）がもたらす潜在的なリスクについて、強い警告を発した。彼は、超知能AIを人類がペットとして飼う「虎」に例える鮮やかな比喻を用いた。「虎を飼ってわざわざいを招く（養虎為患）」という中国の成語を引用しながら、適切に制御・教育されなければ、AGIがいつか創造主である人類を出し抜く可能性があるという警鐘を鳴らしたのである⁵。さらに、AGIが人間を上回る知性を獲得した場合、単に「プラグを抜く」という単純な手段で制御することは不可能になると主張し、「AIは人間に『プラグを抜く』機会を与えないだろう」と述べた⁵。

ヒントン氏のような、AIの能力だけでなくそのリスクについても率直に語る世界的な権威を招聘したことには、二重の戦略的意味合いがある。対外的には、中国がAIの安全性という困難な問題に真剣に取り組んでいるオープンな姿勢をアピールし、国際的な信頼性を高める効果がある。対内的には、国内の研究者や企業に対して、AIの安全性や倫理を優先することが世界的に認められた重要な課題であるというトップダウンの正当性を与える。ヒントン氏がスタンディングオベーションで迎えられた事実は⁵、中国の技術コミュニティがこのメッセージを真摯に受け止めていることを示唆しており、このアライメントが単なる戦略だけでなく、真の関心に基づいている可能性を示している。彼の存在は、WAIC2025が単なる技術見本市ではなく、人類の未来を左右する重要課題について議論する真のグローバルフォーラムであることを印象付けた。

III. エンボディメント革命：フィジカル AI への中国の飛躍

WAIC2025 で最も視覚的かつ戦略的に重要なトレンドは、「エンボディド・インテリジェンス（Embodied Intelligence）」、すなわち AI モデルがロボットやスマートデバイスといった物理的なハードウェアに統合される動きの爆発的な進展であった。AI の知能がデジタル空間を飛び出し、物理世界で具体的なタスクを遂行する能力を獲得しつつある。

ロボティクスにおける量的な飛躍

ロボット関連企業の出展社数が、前年のわずか 18 社から 2025 年には 80 社以上に急増したという事実は、この分野への業界全体のピボットを明確に示している¹。これは単なる数の増加ではない。展示フロアは、静的なディスプレイから、物理的な AI が躍動するダイナミックなショーケースへと変貌を遂げた。ロボットがボクシングの試合を繰り広げるような華々しいデモンストレーションから、卵の殻をむく、串焼きを調理する、飲み物を提供するなど、より実用的なタスクをこなす様子まで、多岐にわたる応用が披露された¹。

このロボット技術の急速な進展は、大規模モデルの成熟と密接に関連している。かつてはロボットのハードウェア開発が、それを効果的に制御するための「頭脳」の進化を上回っていた。しかし現在では、Tencent の VLA（Vision-Language-Action）モデルが Dobot 社のロボットアームを制御する事例に見られるように⁸、高度な AI モデルが知覚、推論、行動計画のための認知アーキテクチャを提供し始めている。MATRIX1 ロボットが示した「脳と身体の協調（brain-body co-operation）」オペレーティングシステムは⁹、まさにこのソフトウェアとハードウェアのシナジーが、自律的で有用なロボットの開発を前例のない速度で加速させていることを示す好例である。

ヒューマノイドの躍進と商業的意味合い

特に注目を集めたのが、ヒューマノイドロボットの集結である⁶。

Unitree 社のマーケティングと技術の融合:

杭州に拠点を置く Unitree 社は、同社のヒューマノイドロボット「G1」2 体がリング上でボクシング対決を行うという、極めて巧みなデモンストレーションを展開した⁶。このパフォーマンスはソーシャルメディアで瞬く間に拡散され、単なる見世物を超えて、同社の技術力、特に動的なバランス制御、リアルタイム制御、そしてハードウェアの堅牢性を世界に知らしめた⁶。さらに重要なのは、その価格戦略である。G1 が 16,000 ドル、そしてより新しい R1 モデルが 6,000 ドル未満という価格設定は、ヒューマノイドロボット研究開発への参入障壁を劇的に引き下げ、開発者コミュニティの拡大を狙うものである¹⁰。

産業界からの参入:

Unitree 社だけでなく、Tesla が「Tesla Bot」を展示したほか¹、産業技術大手の上海電気 (Shanghai Electric) が自社開発の産業用ヒューマノイド「SUYUAN」を初公開するなど¹²、大手企業もこの分野に本格的に参入し、競争環境は急速に激化している。

研究室から工場へ：エンボディド AI の産業応用

WAIC2025 におけるロボティクスの展示は、商業的な実用性を強く意識していた。上海電気が発表した「SUYUAN」は、倉庫での物流作業を実際にこなすデモを行い、産業現場での即戦力となる可能性を示した¹²。また、Matrix Intelligence 社の「MATRIX 1」は、「食卓を片付けて」といった曖昧な指示を理解し、自律的にタスクを計画・実行する能力を披露した⁹。

これらの技術が単なる研究開発段階に留まっていないことは、具体的な商談からも明らかである。中国移動 (China Mobile) が 1 億 2,400 万人民元のロボット調達契約を結んだという事実は、この業界が「技術的な熱狂」の段階から、実際の受注に基づいて成長する「受注駆動型」のフェーズへと移行し始めたことを示唆している⁹。

この市場の動向は、二つの異なる商業化戦略が並行して進んでいることを示している。上海電気や Matrix Intelligence のような企業は、ROI (投資収益率) が明確な特定の産業用途 (物流、製造) をターゲットに、高付加価値なソリューションを提供している⁹。一方で Unitree 社は、かつて DJI がドローン市場で展開した戦略と同様に、低価格・高ボリュームのアプローチで幅広い開発者向けプラットフォームを構築し、長期的なエコシステムの形成を目指している¹¹。この二正面作戦は、短期的な産業導入と長期的なエコシステム開発の両方を加速させるだろう。

AI ネイティブ・ハードウェアの台頭

ロボット以外にも、AI を核として設計された新世代のハードウェアが数多く登場した。これには、AI ペット、AI コンピュータ、多言語対応の透明スクリーンといった製品が含まれる¹。特に注目すべきは、Alibaba の「Quark AI Glasses」や Rokid 社の製品に代表される AI+AR グラスである⁷。

これらのデバイスの登場は、スマートフォン以降の次世代ユーザーインターフェースを巡る覇権争いの始まりを告げている。これらは単なるスマートフォンのアクセサリではない。AI エージェントを介して、より統合された、環境に溶け込むような「アンビエント・コンピューティング」体験を創出しようとする試みである。多くの企業は、将来的にはグラスを通じた音声や視覚による AI との対話が、多くのタスクにおいてスマートフォンよりも自然で効率的になると考えており、その新しいプラットフォームを支配しようと競い合っている。

IV. 大規模モデルの成熟：パラメータ競争を超えて

WAIC2025 は、中国の基盤 AI モデル開発における戦略的な進化を浮き彫りにした。業界全体の潮流は、モデルの規模、すなわちパラメータ数を競う段階から、効率性、応用性、そして堅牢なエージェント層の開発へと明確に移行している。

「規模」から「実用性」への転換

Huawei や Alibaba といった主要な出展企業の展示内容は、「パラメータ数の規模」から「実際の導入・活用能力」へと焦点が移っていた⁶。彼らの語るストーリーは、「AI モデル自体」から「AI モデルの実際の導入」へと変化しており、より現実的で地に足のついたアプローチが取られている⁶。これは、大規模モデルがもはや汎用プラットフォームとしてだけでなく、特定の業界向けに専門能力をパッケージ化したツールとしての側面を強めていることを示している⁶。

エージェント・エコノミー：新たな応用フロンティア

この実用性へのシフトを象徴するのが、「AI エージェント」への強い関心である。AI エージェントは、大規模モデルの価値を解き放つための鍵として位置づけられていた²。ツールを使

い、推論し、複数ステップのタスクを実行できる AI エージェントこそが、LLM の生の知能と、具体的なビジネスプロセスや消費者のニーズとを結びつける架け橋となる。

特に、企業向け応用が大きな注目を集めており、製造業（世界経済フォーラムに選出された黒湖科技の AI エージェント）や科学研究（深勢科技が発表した SciMaster）といった分野での活用事例が紹介された⁶。また、消費者向けでは、中国企業の海外進出を支援する AI エージェント（Specific AI、Navos）が関心を集めるなど、応用範囲は多岐にわたる⁶。基盤モデルそのものが、強力なオープンソースの選択肢の登場によってコモディティ化しつつある中で、真の価値と防御可能なビジネスモデルは、この AI エージェント層に構築されつつある。最高のプラットフォームとツールを構築し、エージェントの作成と展開を容易にする企業が、将来のエコシステムを支配する可能性が高い。

技術的深掘り：新世代モデルの登場

WAIC2025 では、この新しいトレンドを体現する次世代モデルが発表された。

Zhipu AI (智譜 AI) の GLM-4.5:

- **アーキテクチャ:** MoE (Mixture-of-Experts) アーキテクチャを採用。総パラメータ数は 3,550 億だが、トークン毎にアクティブ化されるのは 320 億パラメータのみであり、高い効率性を実現している¹³。
- **主要機能:** 複雑な推論やツール使用を行う「思考モード (Thinking Mode)」と、即時応答用の通常モードを切り替えられるハイブリッドな実行モードが特徴である¹³。
- **性能:** 競合モデルよりも少ないパラメータ数でありながら、エージェント能力やコーディングに関するベンチマーク (TAU-Bench、SWE-bench) で高いスコアを記録し、優れたパラメータ効率を証明した¹³。

Moonshot AI (月之暗面) の Kimi-K2:

- **規模:** 総パラメータ数 1 兆、アクティブパラメータ数 320 億という巨大な MoE モデル。15.5 兆トークンという膨大なデータで学習されている¹⁷。
- **焦点:** エージェント知能、ツール使用、そして最大 256k トークンという長いコンテキスト長に重点を置いている¹⁸。
- **製品戦略:** ファインチューニング用の「Kimi-K2-Base」と、一般的なチャット用途向けの「思考を伴わない反射的な (reflex-grade)」モデルである「Kimi-K2-Instruct」を区別して提供しており、洗練された製品戦略が見て取れる¹⁷。

Zhipu AI の「思考モード」と Moonshot AI のモデルの使い分けは、AI システム設計における

新たな洗練されたトレンドを示唆している。システムはタスクの複雑さに応じて計算リソースを動的に割り当てる。単純なクエリには高速で安価な「反射的」応答を、複雑な問題にはより時間とコストを要する「推論」プロセスを起動させる。このアプローチにより、性能と遅延の間のコスト効率の高いバランスが実現され、AI はより広範なアプリケーションで商業的に利用可能になる。

代替アーキテクチャの探求

Transformer アーキテクチャが依然として主流である一方で、**RWKV**や**RockAI** といったスタートアップが非 **Transformer** ベースのソリューションを提示し、推論コストを 1 桁削減できる可能性を示したことも注目に値する⁶。これは、現在の支配的なアーキテクチャを超えた、さらなる効率化への探求が始まっていることを示している。

Zhipu AI と **Moonshot AI** による **MoE** アーキテクチャの広範な採用は、単なる技術的な選択ではなく、戦略的な必然である。最先端 **GPU** の高コストと供給不足の可能性を考慮すると²⁰、**MoE** は、トークンごとにパラメータのごく一部のみをアクティブ化することで、推論コストを管理可能な範囲に抑えつつ、極めて大規模なモデル（**Kimi-K2** では 1 兆パラメータ）の学習を可能にする。これは、知能を効率的にスケールさせるという課題に対する、極めて現実的な解決策である。

以下の表は、**WAIC2025** で注目された主要な大規模モデルの技術的特徴を比較したものである。

特徴	Zhipu AI GLM-4.5	Moonshot AI Kimi-K2	主要な示唆	典拠
アーキテクチャ	Mixture-of-Experts (MoE)	Mixture-of-Experts (MoE)	MoE が効率的にスケールを達成するための支配的アーキテクチャとなっている。	13
総パラメータ	3,550 億	1 兆	規模への野心	13

数			は継続しているが、効率的なアプローチが取られている。	
アクティブパラメータ数	320 億	320 億	約 320 億というアクティブパラメータ数への収束は、性能とコストのスイートスポットを示唆している。	13
コンテキスト長	128k	最大 256k	長いコンテキストは、複雑なエージェントのワークフローを実現するための重要な機能である。	15
主要な差別化要因	動的推論のためのハイブリッド「思考モード」	高速応答用の「反射的」 Instruct モデルと巨大なスケール	高度な制御（ Zhipu ）対、圧倒的なパワーと特化（ Moonshot ）という戦略の違いが見られる。	15

V. テクノロジー・タイタンの動向：戦略的必須事項とエコシステム戦略

WAIC2025 は、中国の主要テクノロジー企業が、それぞれ専門的で防御可能なエコシステムへと分岐していく明確な戦略の違いを明らかにした。米国の制裁という地政学的な断層線が、この戦略的分化を促す主要な触媒となっている。

Huawei：完全な技術的自立の追求

Huawei の戦略は、米国の技術制裁を生き抜き、国内市場で代替不可能な地位を築くという一点に集約される。これは、ハードウェアからソフトウェアまでを垂直統合した、自己完結型のエコシステム構築へと結実している。

- **ハードウェア基盤:** 同社は、Ascend AI チップの野心的なロードマップを公開した。Ascend 950 シリーズ（2026 年第 1 四半期）、960 シリーズ（2027 年第 4 四半期）、そして 970 シリーズ（2028 年第 4 四半期）と、年間リリースサイクルごとに計算能力を倍増させる計画である²²。これは NVIDIA に対する直接的な国内代替品を構築する明確な戦略である。
- **ソフトウェアエコシステム:** 2025 年末までに、コアソフトウェアスタックである CANN（Compute Architecture for Neural Networks）をオープンソース化する戦略を発表した²²。これは、自社のハードウェアを中心に広範な開発者コミュニティを形成し、強力な参入障壁（モート）を築くことを目的としている。
- **統合ソリューション:** WAIC で披露された、完全に自社製チップで稼働する「CloudMatrix 384」クラスターは、この垂直統合戦略の集大成と言える¹²。

Alibaba & Tencent：クラウド AI プラットフォーム戦略

クラウド事業を中核とする Alibaba と Tencent は、AI 開発のための最も包括的で開発者に優しいプラットフォームを構築することで、エコシステムの覇権を争っている。これは、中国および世界の「AI 版 AWS」を目指す競争である。

- **Alibaba Cloud:** オープンソースの Qwen（通義千問）モデル群から、AI エージェント開発・実行環境の「AgentBay」、そして物理 AI 開発を加速するために NVIDIA のソフトウェアスタックを統合した PAI（Platform for AI）まで、フルスタックの製品群を提供している²⁵。戦略の核心は、AI 開発に不可欠なクラウドベースの「オペレーティングシステム」となることである。

- **Tencent:** シナリオベースの AI と「SaaS + AI」ソリューションに重点を置いている²⁷。主要な発表には、企業が AI エージェントを業務フローに統合するための「Agent Development Platform 3.0」や、メディアやゲームといった特定の垂直産業をターゲットとした 3D 生成モデル「Hunyuan 3D 3.0」が含まれる²⁷。彼らのアプローチは、既存のエンタープライズワークフローに AI を深く組み込むことにある。

Huawei と Alibaba は、単なる開発手法としてではなく、市場獲得のための戦略的武器としてオープンソースを活用している。CANN (Huawei) や Qwen (Alibaba) といったエコシステムの主要コンポーネントをオープンソース化することで、開発者のロイヤルティを迅速に獲得し、自社の技術をデファクトスタンダードとして確立し、採用を加速させることを狙っている²⁴。これは、ネットワーク効果を創出し、競合他社が追随困難な状況を作り出す、AI 時代に適応した古典的なプラットフォーム構築戦略である。

Baidu：垂直応用における圧倒的優位性

Baidu は、広範なプラットフォーム競争よりも、特定の高付加価値な垂直領域で圧倒的なリーダーシップを確立し、商業化を急ぐ戦略を採っている。

- **自動運転:** 上海で「Apollo Go」ロボタクシーの有料営業許可を取得したことは、この戦略の最大の成果である⁹。これにより、Baidu はこの競争の激しい分野でのリーダーとしての地位を不動のものにした。
- **デジタルヒューマン:** 有名な起業家である羅永浩氏のデジタルアバターを通じて、新世代のデジタルヒューマン技術プラットフォーム「Nova」を発表した³¹。これは、Baidu が AI を商業化しているもう一つの重要な垂直領域である。

以下の表は、WAIC2025 における中国テクノロジー・タイタンの主要な発表とその戦略的重要性をまとめたものである。

企業	主要な発表／製品	戦略的重要性	典拠
Huawei	Ascend AI チップロードマップ (950, 960, 970) & CANN オープンソース化	AI コンピューティングにおける完全な技術的自立への明確な道筋を確立し、NVIDIA に対する国	²²

		内代替手段を創出。	
Alibaba	AgentBay プラットフォーム & Qwen オープンソースイニシアチブ	Alibaba Cloud を AI 開発の中心的な「OS」と位置づけ、包括的でオープンなプラットフォームを通じてエコシステムを掌握することを目指す。	26
Tencent	Hunyuan 3D 3.0 モデル & Agent Development Platform 3.0	垂直特化型・シナリオベースの AI（「SaaS + AI」）に焦点を深め、メディア、ゲーム、企業連携などの高価値産業をターゲットとする。	27
Baidu	上海での Apollo Go ロボタクシーの商業的ローンチ	主要な垂直領域における研究開発から収益創出への重要な移行を示し、自動運転モビリティにおけるリーダーシップを固める。	9

VI. セクター・スポットライト：実用化が進む自動運転と産業分野

WAIC2025 は、AI の商業化が理論から実践へと移行し、大きな経済的インパクトをもたらしつつある二つの主要産業に光を当てた。自動運転と産業インテリジェンスである。

自動運転の商業的な夜明け

WAIC2025 の期間中、上海市政府は中国の主要都市（一級都市）で初となる、完全無人ロボタクシーの有料営業許可を Baidu の「Apollo Go」と Pony.ai に発行した⁹。これは、長年にわたる研究開発と公道試験を経て、自動運転業界がテスト段階から商業サービス段階へと移行した画期的な出来事である。

- **上海でのブレイクスルー:** この許可は、単なるマイルストーンではない。Baidu と Pony.ai に、世界で最も複雑な都市環境の一つで、継続的に実世界の走行データを収集する機会を与えるものである。このデータは AI モデルを改善するための燃料となり、強力なフィードバックループ、すなわち「データ・フライホイール」を生み出す。彼らが走行すればするほど、システムは賢くなり、同様の営業許可を持たない競合他社に対する競争優位は拡大していく。
- **事業規模と将来性:** 初期運用エリアは上海浦東新区の 759 平方キロメートルに及び、2027 年までには 2,000 平方キロメートルに拡大する計画である³⁰。ロボタクシーの台数も、2025 年末までに現在の約 100 台から 500 台へと大幅に増加する予定だ³⁰。世界のロボタクシー市場は、1 兆円規模の機会になると予測されており、この分野での先行は極めて重要である³²。
- **競争環境:** WAIC には Tesla も出展しており、同社も中国での FSD（Full Self-Driving）とロボタクシーの展開に意欲を見せている³⁰。これにより、国内のチャンピオン企業とグローバルリーダーとの間で激しい競争が繰り広げられる舞台が整った。

産業インテリジェンス：未来の工場

中国が大量生産からハイテクを駆使した「インテリジェント製造」へとバリューチェーンを上昇させようとする国家戦略において、AI は決定的に重要な実現技術である。WAIC2025 では、この分野での具体的な進展が示された。

- **Siemens Industrial Copilot の導入:** ドイツの産業大手 Siemens が、自社の産業用 AI アシスタント「Industrial Copilot」の中国における初のパイロットアプリケーションを WAIC で発表したことは、極めて象徴的である¹。これは、中国の先進的な製造業セクターから、高度な AI アシスタントに対する強い需要があることを示している。
- **具体的な ROI:** この Industrial Copilot は、自然言語のプロンプトから PLC（プログラマブルロジックコントローラ）のコードを生成したり、現場のオペレーターを支援したりする

ことで、プログラム開発時間と現場での試運転時間を 30%削減し、資材損失を 10%低減するとされている³³。これは、AI が抽象的な概念ではなく、工場の生産性を直接向上させるツールであることを示している。

- **市場の課題:** 一方で、Siemens が実施した調査では、高い導入コストや専門人材の不足が AI エージェント導入の障壁となっていることも明らかになった³³。これは、今後、より使いやすく、導入が容易なソリューションが求められることを示唆している。

産業用 AI の導入は、中国の最も重要な経済セクターの競争力を強化するための核心的な取り組みである。エンジニアリング、オペレーション、メンテナンスに AI を組み込むことで、生産性を向上させ、品質を高める。これは、消費者向けガジェットとしての AI ではなく、国家の産業基盤を支えるインフラとしての AI の重要性を物語っている。

VII. 戦略分析：2025 年における中国 AI を定義する特徴

WAIC2025 での観測結果を統合すると、今日の中国 AI 産業の DNA を構成するいくつかの核心的な特徴が浮かび上がってくる。これらは、中国の AI エコシステムが持つ独特のダイナミズムと方向性を定義している。

トップダウンの野心とボトムアップのイノベーション

中国の AI の発展は、二つの力の相互作用によって駆動されている。一つは、政府によるトップダウンの戦略的指導である。WAIC で発表されたグローバルなガバナンス構想や³、上海市が主導する自動運転ロードマップ³⁰などは、国家レベルでの明確なビジョンと野心を示している。もう一つは、民間セクターから湧き上がる、活気に満ちたボトムアップのイノベーションである。このダイナミズムを支えているのが、豊富な若手人材だ。WAIC の青年優秀論文賞への投稿者の平均年齢はわずか 29 歳であり²、スタートアップが集まる「Future Tech」エリアの創業者たちの 50%以上が 1990 年以降の生まれであった⁶。この深く持続可能な人材パイプラインが、草の根レベルからの革新を絶え間なく生み出している。

ハードウェアとソフトウェアの協調設計

AI モデルとハードウェアを開発の初期段階から深く統合する「協調設計（Co-Design）」は、もはやニッチなアプローチではなく、業界の主流となっている。この思想は、Huawei の Ascend チップと CANN ソフトウェアからなるエコシステム²²、高度なロボットにおける「脳と身体の統合」⁹、そしてスマートグラスのような AI ネイティブ・デバイスの開発³⁵ など、あらゆる層で見ることができる。このアプローチにより、性能が最適化され、特定の目的に特化した、より効率的な AI システムが生まれている。

誇大広告よりも実利主義：ROI を重視する市場

市場の関心は、抽象的な性能指標から、具体的な問題を解決し、明確な投資収益率（ROI）を提供するソリューションへと明らかに移行している。製造業³³、自動運転モビリティ³⁰、企業効率化²⁷といった分野での具体的な応用事例が、技術的な誇大広告よりも重視されている。一部のベンチャーキャピタリストがロボットのデモンストレーションの「ショー的側面」に懐疑的な見方を示したことは¹²、単なる見世物ではなく、実世界での商業的な実行可能性が厳しく問われていることを裏付けている。

迅速なイテレーションとエコシステム構築

チップからモデル、そしてアプリケーションに至るまで、エコシステム全体が極めて速いペースで進化している。Huawei が掲げる 1 年ごとのチップリリースサイクル²³や、スタートアップ企業から絶え間なく発表される新しい AI モデルは、この速度を象徴している。この迅速な製品開発は、エコシステム構築への強い志向と結びついている。Huawei の CANN、Alibaba Cloud、そして半導体とモデルの連携を目指す「模型・チップ生態革新連盟」¹²などは、ネットワーク効果を創出し、開発者や顧客を自社のプラットフォームに囲い込むための戦略的な取り組みである。

VIII. 将来展望と戦略的提言

本レポートの分析に基づき、中国 AI 産業の今後の軌跡を展望し、戦略的な意思決定者に対して具体的な提言を行う。

注視すべき主要な軌跡

- **次なるアーキテクチャのシフト:** 非 Transformer ベースのモデルの台頭は⁶、計算コストを劇的に下げることによって、現在の LLM の風景を一変させる可能性がある。これにより、強力な AI へのアクセスがさらに民主化され、新たなイノベーションが生まれる土壌が形成されるだろう。
- **科学のための AI (AI for Science):** 「Novalnspire」のようなプラットフォームの登場は³⁶、創薬や材料科学といった基礎科学研究に AI を応用する動きが本格化していることを示している。この分野は、長期的に見て社会に最も大きなブレークスルーをもたらす可能性を秘めている。
- **AI エージェントの進化:** より洗練され、自律的に複雑な複数ステップのタスクを処理できる AI エージェントの開発動向は、引き続き最重要監視項目である。生産性の飛躍的な向上は、この領域から生まれる可能性が最も高い。

機会と課題

- **機会:** 中国が掲げる「グローバルな連帯」とオープンプラットフォーム戦略は、国際協力の機会を提供する。特に、補完的な技術を持つ企業や、中国の広大な応用市場へのアクセスを求める企業にとっては、新たなパートナーシップの道が開かれる可能性がある。
- **課題:** 地政学的な緊張は、依然として最大のリスク要因であり、重要な技術や人材へのアクセスを制限する可能性がある。AI の計算コストの高騰は根強い課題であり²⁰、アルゴリズムとハードウェア両面での効率化イノベーションを今後も駆動し続けるだろう。また、AI の商業化は、現在の先行分野以外では依然として多くの障壁に直面している²¹。

戦略的意思決定者への提言

- **投資家向け:**
価値がますます集約されつつあるアプリケーション層とエージェント層に焦点を当てるべきである。特に、産業オートメーションや企業効率化向けのソリューションは、収益化への道筋が明確であるため有望である。Unitree のような低コスト・高ボリュームのハードウェア戦略と、高付加価値な産業システムという市場の二極化を認識することが重要である。

- 企業戦略担当者向け:
中国の技術的自立への強い動きを考慮し、サプライチェーンと技術依存性を再評価する必要がある。持続可能性や産業効率化といった共通の利益が存在する分野で、中国企業との提携機会を模索すべきである。ますます高度化し、コスト競争力を持つ AI 駆動型の製品やサービスを提供する中国企業との競争激化に備える必要がある。
- 技術パートナー向け:
中国で形成されつつある AI エコシステムとの統合機会を探るべきである。地政学的制裁の対象外である専門的なハードウェア、データ、アルゴリズムを提供する企業は、自社プラットフォームの拡充に熱心な中国のテクノロジー・タイタンにとって、魅力的なパートナーとなり得る。

引用文献

1. World AI conference in Shanghai showcases China's tech prowess ..., 10 月 22, 2025 にアクセス、
https://www.globaltimes.cn/page/202507/1339323.shtml?utm_source
2. 2025 上海 WAIC 大会レポート - 最新 AI 技術動向と展示会レビュー - 匠新, 10 月 22, 2025 にアクセス、<https://www.takumi.ltd/report -2025waic>
3. China Proposes “World AI Cooperation Organization” at WAIC 2025 - Pandaily, 10 月 22, 2025 にアクセス、<https://pandaily.com/china -proposes-world-ai-cooperation -organization-at-waic-2025>
4. 中国が「AI の国際ルール作り」で本気を出した日 李強首相が提案した“WACO 構想”の全貌【2025 年 WAIC レポート - note, 10 月 22, 2025 にアクセス、
<https://note.com/tama583/n/n744d062332ed>
5. AI 'Godfather' Geoffrey Hinton Urges Global AI Cooperation at WAIC 2025 in Shanghai, 10 月 22, 2025 にアクセス、<https://pandaily.com/ai -godfather -geoffrey -hinton-urges-global-ai-cooperation-at-waic-2025-in-shanghai>
6. 【寄稿】「南の WAIC 北の WRC」2 つの中国大型テック展覧会を ..., 10 月 22, 2025 にアクセス、<https://techblitz.com/expert -insight/contribution -takumi-innovators11/>
7. WAIC 2025: How AI Is Shaping Global Communication- Logrus IT, 10 月 22, 2025 にアクセス、<https://www.logrusit.com/en/blog/waic -2025/>
8. The Day the Robots Came to Shanghai: A Look at WAIC 2025- Aparobot Articles, 10 月 22, 2025 にアクセス、<https://www.aparobot.com/articles/the -day-the-robots-came-to-shanghai-a-look-at-waic-2025>
9. WAIC 2025: Intelligence in Action, Progress for the Planet - BCC.Global Media, 10 月 22, 2025 にアクセス、<https://bccmedianews.com/?p=3631>
10. WAIC（世界人工知能会議）出展の主要なロボットメーカーとロボット名 | Kawamura Akihiro - note, 10 月 22, 2025 にアクセス、
<https://note.com/kawamura akihiro/n/n3a43ce7db958>
11. WAIC 2025: Shanghai Hosts 60+ Humanoid Robots | Mike Kalil, 10 月 22, 2025 に

- アクセス、 <https://mikekalil.com/blog/waic-2025/>
12. China Unveils AI Vision As Robots Rule WAIC 2025 - Inc. Arabia, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://en.incarabia.com/china-unveils-ai-vision-as-robots-rule-waic-2025-764031.html>
 13. [2508.06471] GLM-4.5: Agentic, Reasoning, and Coding (ARC) Foundation Models - arXiv, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://arxiv.org/abs/2508.06471>
 14. GLM-4.5: Reasoning, Coding, and Agentic Abilities - Z.ai Chat, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://z.ai/blog/glm-4.5>
 15. GLM-4.5 - Z.AI DEVELOPER DOCUMENT, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://docs.z.ai/guides/llm/glm-4.5>
 16. GLM-4.5, an open-source MoE Agentic, Reasoning, and Coding From Z.ai | DigitalOcean, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://www.digitalocean.com/community/tutorials/glm-agentic-reasoning-coding-model>
 17. Kimi K2: Open Agentic Intelligence, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://moonshotai.github.io/Kimi-K2/>
 18. Kimi K2 is the large language model series developed by Moonshot AI team - GitHub, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://github.com/MoonshotAI/Kimi-K2>
 19. Moonshot AI Open Platform - Kimi Large Language Model API Service, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://platform.moonshot.ai/>
 20. Trend | AI computing power turns to application, robots + liquid, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://en.eeworld.com.cn/mp/Aixintianxia/a401183.jsp>
 21. Unveiling AI's "Future Answers": Large Models, Robots, and Agents in 36Kr's "Talking about the Future" Live - stream at WAIC 2025 - 36 氪, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://eu.36kr.com/en/p/3410724381035906>
 22. Groundbreaking SuperPoD Interconnect: Leading a New Paradigm for AI Infrastructure - Huawei, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://www.huawei.com/en/news/2025/9/hc-xu-keynote-speech>
 23. Huawei outlines roadmap for Ascend AI chips - RCR Wireless News, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://www.rcrwireless.com/20250922/ai-infrastructure/huawei-ai-chips>
 24. Ascend: Open for All to Build a Vibrant Ecosystem - Huawei, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://www.huawei.com/en/news/2025/9/hc-shengten-opensource>
 25. Alibaba Cloud Announces International Expansion Plans to Power the Next-Generation AI Innovations - Media Outreach Newswire, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://www.media-outreach.com/news/china/2025/09/24/412730/alibaba-cloud-announces-international-expansion-plans-to-power-the-next-generation-ai-innovations/>
 26. Alibaba Cloud Unveils Strategic Roadmaps for the Next Generation AI Innovations – Company Announcement - FT.com - Markets data, 10 月 22, 2025 にアクセス、 <https://markets.ft.com/data/announce/detail?dockey=600-202509240015DGAP ASPR corporate 2202794 en-1>

27. Tencent Announces Global Rollout of Scenario-Based AI Capabilities to Accelerate Industrial Efficiency, 10 月 22, 2025 にアクセス、
<https://www.tencent.com/en-us/articles/2202183.html>
28. Tencent Unveils Hunyuan 3D 3.0 AI Model: Tripling Modeling Accuracy with Free Access, 10 月 22, 2025 にアクセス、
<https://pandaily.com/tencent-unveils-hunyuan-3d-3-0-ai-model-tripling-modeling-accuracy-with-free-access>
29. Alibaba Recognized on Fortune's 2025 Change the World List for Open-Source AI, 10 月 22, 2025 にアクセス、
<https://www.alibabacloud.com/blog/602562>
30. China greenlights paid robotaxi service in all first-tier cities - TechNode, 10 月 22, 2025 にアクセス、
<https://technode.com/2025/07/29/china-greenlights-autonomous-ride-hailing-service-in-all-first-tier-cities-waic-2025/>
31. Direct from WAIC | Baidu: 'Luo Yonghao' digital human technology platform to be open for use across the Industry in October, 10 月 22, 2025 にアクセス、
<https://news.futunn.com/en/post/59677294/direct-from-waic-baidu-luo-yonghao-digital-human-technology-platform>
32. CATL's New Company Launches Debut Fundraising with a Valuation of \$10 Billion - 36 氪, 10 月 22, 2025 にアクセス、
<https://eu.36kr.com/en/p/3400858081249673>
33. Siemens Launches AI Assistant Pilot in China at Major Industry Fair - Yicai Global, 10 月 22, 2025 にアクセス、
<https://www.yicaiglobal.com/news/germanys-siemens-unveils-pilot-application-of-industrial-ai-assistant-in-china-at-ciif>
34. Siemens' Industrial Copilot Empowers Manufacturers - ARC Advisory Group, 10 月 22, 2025 にアクセス、
<https://www.arcweb.com/blog/siemens-industrial-copilot-empowers-manufacturers>
35. Rokid VP on AI Glasses, Replacing the Smartphone, and the State of Augmented Reality : r/augmentedreality - Reddit, 10 月 22, 2025 にアクセス、
https://www.reddit.com/r/augmentedreality/comments/1mob26i/rokid_vp_on_ai_glasses_replacing_the_smartphone/
36. WAIC2025 - Pandaily, 10 月 22, 2025 にアクセス、
<https://pandaily.com/waic2025>
37. World AI Conference 2025 kicks off on July 26; more than 100 products to make debut, 10 月 22, 2025 にアクセス、
<https://en.people.cn/n3/2025/0711/c90000-20338942.html>